

令和6年5月17日

松阪市議会議員

坂口秀夫 様

研修報告書

海住恒幸

研修会名称 議員力研究会

開催日 令和6年5月11日 午後1時10分から午後5時

場所 新明コミュニティセンター（名古屋市中村区名駅3丁目）

<アドバイザー> 青山崇氏

（自治体学会副理事長。元岐阜県多治見市職員、現在、多治見市文化振興事業団事務局長）

<参加者＝会員> 9人

瀬戸市議会議員（愛知県）、犬山市議会（同）、日進市議会議員（同）、恵那市議会議員（岐阜県）、岐阜市議会議員（同）、各務原市議会議員（同）、美濃市議会議員（同）、松阪市議会議員（西口、海住）



<研究会の概要>

●第一部（午後１時１０分～午後３時２５分） 事例報告

３人のメンバーが一般質問等を持ち寄り報告。今回は、瀬戸市議会と各務原市議会、松阪市議会（海住）の３議会の議員からの報告となる。報告者にあたっている者は、研究会の申し合わせにより２週間前に、一般質問や質疑などの中から選んだテーマや、テーマとする理由、それを議論したい理由を記入した整理表と議事録、資料をメールによって提出する。それ以外の者は、事前にこれらの文書に目を通しておくこととして、当日は必ず全員が発言することになっている。

<報告事例 1>

【瀬戸市議会のケース】

名鉄・中水野駅周辺土地区画整理事業の市補助金の支出について予算の組み替え動議を提出した事例

土地区画整理事業において施行組合を設立するには地権者の3分の2以上の同意で可とし、同市では75%の同意があったとして補助金を予算化した。しかし、愛知県では85%同意を求めている。そんな中であるので令和6年4月現在においても組合は存在せず補助金の交付先がないにもかかわらず予算化するのには問題があるとして当該補助金として計上した8款4項2目の2億6500万円を8款4項1目の都市環境整備基金に組み替える動議を提出した。この動議は賛成少数で否決されたが、動議に賛成したのは10人、反対したのは15人と賛否が拮抗する議論となった。その理由は、予算の組み替え動議は、多くの議員にとって原案に反対せずに済むためなのだという。

<海住の所感>

市街地の中に取り残されたようにまとまった水田風景がある。駅前ということでそこを市街地にして住宅地としてディベロッパーに売却する事業だ。山を削り、水田を埋め立てる開発はもうやめてほしい。今でも十分すぎるほどの市街化、これ以上の“熱源”を増やしてどうする？ 宅地開発に数十億円の公費を持ち出

す事業は間違っている。

地図を見ると、内陸の小高い山のふもとで川や水路に囲まれた地形。「水野」や「三沢」、「内田」など水にまつわる地名が占める。中水野駅の周囲を取り囲む事業計画地。駅周辺でありながら開発から取り残されていることも開発誘因なのだろうが、この地域が開発から守られてきたのには理由があるだろう。開発は抑制すべき地域なのだ。

瀬戸市と言えば、かつて「愛・地球博」で海上の森の保全で議論が戦わされた経験もあるはずだ。そんな自治体であるだけに、目先の利益にとらわれた開発ではなく、自然を守る都市計画の方を優先すべきである。

なお、予算の組み替えに賛成した議員が半数近くに及んだことは注目にあたいする。議会では現予算を承認する形だったが、市民はそれに賛同したというわけではないだろう。市民的議論ができるよう、シンポジウム等を開催するなどし、市に問題提起をしていく方法は残されている。市民運動の盛り上がり期待したい。

<報告事例 2>

【松阪市議会のケース】

海住が予定している令和6年6月定例会での一般質問について、過去の失敗を踏まえ、常任講師の青山さんや会員の意見を求めた。それを参考にさっそう準備

に取り掛かっている。

(6月定例会を控えた内容であるので公表できません)

<報告事例3>

【各務原市議会のケース】

報告は個々の議員の質疑や質問を取り扱うのが原則であるが、各務原市の事例は、質疑のあり方をめぐって議会運営委員会で問題になった事例。

議案質疑が一般質問化しているとして問題にされ、議会運営委員会とは異なる議会運営委員会協議会という非公式協議の場で対応が協議され、従来、無制限だった質疑時間を20分に短縮されたという。

<海住の所感>

非公式な議運協議会という場で協議したことなど、多くの問題がある。議運には全員一致を原則に運営されているとのことであるが、大勢に異議を述べる議員は大きなプレッシャーを感じるようであり、自由な協議とはほど遠い状況にあるようだ。

●第二部（午後4時～午後5時）

意見交換 「基金のあり方について」

基金には特定の目的を持って設置されるものとの定めが地方自治法にはあるが、公共施設整備基金の運用益を子育て支援策に充てるという事例が、会員の自治体にあった。

多くの自治体で公共施設管理計画を策定し、将来的に必要となる修繕・改修のために剰余金を基金化しているものと思われるが、長期的な目線よりも短期的にニーズの高い施策に基金を取り崩せるよう条例改正が行われるケースがあるということか。

あらためて、膝下の基金についてのチェックが必要となる。

【全体の所感】

6月定例会を控えた中での自分の一般質問についての検討を事例報告とした。このため、この報告書には記載は控えたいことは、ご容赦願いたい。研究会に集まっているメンバーは、それぞれの議会では少数派である。このため、議会や執行部に立ち向かう上で困難さが伴うが、そのことに対する不満ではなく、どのようにすれば成果につながるかを意見交換することで引き続いての議会活動への糧としている。そんな中、愛知県瀬戸市議会では、否決はされたものの、予算の

組み替え動議を提出したところ、25人の議員のうち10人の賛同を得た。この
取り組み経験は意味がある。なかなかこのようにはいかないが、常に問題を提起
できる議員活動が必要である。

以上